

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年6月1日
事業所名	グループホーム「あじさい」
ユニット名	1階
事業所番号	2370401073
記入者名	職名 管理者 氏名 狩野 由香里
連絡先電話番号	052-505-8105

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	ユニット理念が浸透していないため、スタッフへの啓蒙に取り組んでいきたい
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	入居時には必ず説明するようにしていきたい。また地域では、あじさい便りにのせているがそれを踏まえて理念に触れていくのもよい
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	立ち寄るまではなかなかいかないので、現在はこちらが地域に出て行くのに視点を置いている。積極的に地域へでることが定着したら、あじさいへ来ていただく計画を立てていきたい
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	推進会議の中で地域の行事を教えていただけなので積極的に参加していきたい。またスタッフにも早めに情報伝達することを徹底し、勤務の調整をしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	推進会議で認知症の予防や早期発見について、老 人会・独居老人の食事会で勉強会してほしいとい う要望が出ており、話を進めている	○	左記を具体化し、実行する。またそのために、必 要な情報や知識を学ぶ努力をする
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のあとは意識しているが、月日が経つにつれ 薄れてしまっているのが現状である。	○	リーダー会議や全体会議の前に必ず見直すなど、 定期的に見る機会を設定する。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	報告は口頭だけでなく、写真で利用者様の様子、 表情が分かりやすいようにしている。(家族には 了承済)また、防災についての意見を多くいた だくので防災訓練は積極的に行っている。また地 域の方を優先して入れていただきたいという要望 もあるので、空室がでた場合、できる限り、民 生委員に対象者が居ないか聞いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	介護保険課や保護係りには、別の用事でいっ ても挨拶に行くようにしている。保護係りには、 状態の変化などために報告するようにしている。	○	名古屋市の役所の方にも運営推進会議に出席 していただけるよう交渉していきたい。毎回断 られます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	身寄りのない方は、権利擁護センターを利用 している。	○	権利擁護や必要な方でも、込んでいてな かなか利用できないのと、後見人制度は利 用料が高く利用できない利用者様もお られ、その方たちの権利擁護を考 えていかなければならない。権利 擁護の研修は、難しいイメージが あり、足が遠のいてしまっている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止 関連法について学ぶ機会を持ち、 利用者の自宅や事業所内で虐待 が見過ごされることがないよう 注意を払い、防止に努めている	職員からの情報、また利用者様からの 言葉と事実関係は、必ず確認を する。	○	何が虐待に当たるのか、学ぶ機会 を作りたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、不安疑問は常に聞くように努めている。また多い内容の不安については、こちらから情報提供するようにしている。解約の場合は、前もって小出しにそのような内容を徐々に言い、次の場所の相談もしっかり聞くようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付表を活用し、解決まで経過を追ってみていくようにしてある。意見箱を設置している。</p>	<p>○</p> <p>スタッフに浸透していないため、サービスの向上のために苦情は必要であることを説明する。また苦情受付に取り上げていないことのほうが多いため、管理者がまず示していきたい</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>変化があったときは必ず連絡し、往診のときは変わりなくても変わりなっ方報告に加え、日常生活を報告している。また月に1回、写真を編集したものとあじさいだよりと担当者からの手紙を各家族に送っている。家族の面会時にも必ず話をするようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員のことは担当もなかなか紹介できていないので取組んでいきたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプランに反映させたり、またスタッフ同士で共有できるようにしている。13に同じ</p>	<p>○</p> <p>ケアプランを説明する時に家族が言いやすいよう、事前に時間をとっていただける時間を伝えていきたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やユニット会議・リーダー会議を毎月1回開催している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>透析日には夜勤明けが必ず1回にいるように、また日勤がいるように考慮している。</p>	<p>○</p> <p>土曜日が早遅になってしまうことが多い。外出の時に人数調整をできるとよい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの表情のよくみて訴えは聞くようにし、ガス抜きをするようにしている。また辞めていくスタッフには利用者に事前に言わないようにし、利用者の認知度や理解力に応じた説明をするようにしている。	○	運営者、管理者・リーダーとのスタッフの事に関する情報交換がもっとできるとよい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、情報提供はするが自主性に任せていることが多い。名古屋市の研修や運営者・管理者が言って欲しいと判断した場合は勤務内で行ってもらっている。愛知県GH協会の研修委員・名古屋市GH協会の研修企画に携わり、研修に行きやすくできるよう努めている。	○	段階に応じてこういう研修を・・・という目安の研修計画があるとよい。作っていくという話はあるが、なかなか絞りきれないでいる。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームが集まり、交流と勉強会を行っているが、参加率は悪い。	○	時間帯が遅く、出席しにくい。必要性や向上心がなかなか得られないため、アピールを考えていかなければならない。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	夏休み・冬休み・春休みを希望どうり連休が取れるよう調整している。	○	忘年会や歓送迎会などもっとやっていきたい。主催しても参加が少ないため、多く参加できるように考慮していきたい
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別目標シート・評価表を記入している。ユニット入れ替わり研修を実施している。	○	目標シートが活用されてないため、どのように活用していくのか話し合っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	専務・管理者が行い、必要なことはスタッフに伝える	○ こういう相談があったということを伝えていく
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	専務・管理者が行い、必要なことはスタッフに伝える	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	専務・管理者が行い、必要なことはスタッフに伝える	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	急遽のかたが多いが、なるべく1度は見学にきていただくようにしている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	ともに生活し、ともに過ごす時間を増やすことにより、気持ちの共有をする努力をしている。利用者様から教えていただく気持ちを忘れず、スタッフ対利用者の関係だけでなく利用者様同士の関係ができるよう橋渡しをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも報告し、一方的に決めるのではなく、家族に相談する形で話をする。よく面会に見え家族に関しては、話ができている	○	家族対応は管理者がほとんどおこなっているため、家族の面会時などスタッフが状況報告できるようにしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	担当がメッセージカードを書き、より身近に感じただけのようにしている。また家族連絡時は、本人にも電話をかわってもらっている。田楽大会・味覚祭・餅つきなど家族に声をかけ、家族同士が交流を持って、利用者様・他利用者様・スタッフと接する機会を設けている。	○	家族関係があまりよくない利用者様には、1対1にするのではなく、会話の橋渡しに入ることも意識して欲しい
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた透析病院へ通えるよう、火木土お弁当を作り、送り迎えしている。利用者様のやっていた和菓子屋ののれんわけした店へ買いに行く		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う・合わないを普段の表情や言動から把握し、席を決めている。問題が起こった場合は、その都度話し合っ席替えをしている。耳が遠い方の隣や会話の受け渡しが必要なところにはスタッフが間に入るようにしている。	○	スタッフ全員が意識して欲しい
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院してなくなってしまうケースが多いが入院中はお見舞いへ行ったり、なくなった時は行けるスタッフ全員で通夜・葬儀に参列させていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入浴時や買い物時、居室での援助時など個人的に話せる時間帯で得た情報を元に把握するように努めている。</p>	○	<p>その情報をしまっておくのではなく、みなに伝えられるよう話し合う場を増やしたい</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のアセスメントで本人・家族から情報を得ているが、なかなか共有できていない。また追加情報を記入できていない。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日交代勤務をする中で、起きてくる時間や寝る時間など個人を見る意識はできている。心身の変化も看護師にまめに報告している。有する力についてはもっと話し合う必要があると考えている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファの計画を立て、決定事項は分かりやすくスタッフに伝えるようにしている。家族にはこういう方法でいきたいと伝え、意見を聞くようにしている。</p>	○	<p>1つの決定事項に関しても、定期的に経過が話し合えるようにどれくらい様子を見るか決めていきたい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>話し合いはできてもプラン変更はできていない</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・検温表・連絡ノート・ケアプラン実施表を活用している。連絡ノートは業務・利用者様気付き・医療指示と分けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・透析送迎介助や訪問マッサージの利用、内科・眼科・歯科往診の活用をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員がスタッフとして働いているので、協力できている。時にはスタッフとしてではなく、民生委員として話をしてもらっている。警察は行方不明になった時に協力していただいております。防災に関して消防署に訓練していただいたり、講義していただいている。傾聴ボラは月2回来て頂いている。美容院のボラが月1回みえる	○	今後地域のいきいきサロンへ参加していきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージを取り入れている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特になし	○	運営推進会議へ参加していただけるよう働きかける

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	できていない	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問看護との連携を活用したい
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	管理者と家族だけが話すのではなく、スタッフも話し合いに参加できるとよい
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	1階ではそこまでの方はみえないため、具体的に話し合ったことがない。2階であったときは不安な気持ちが大きく今後準備検討が必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	リーダーか担当スタッフと一緒にいけるようにしたい
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	リーダー・管理者・専務が記録をチェックするようにしているが指導までできていない
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	料理の1部分しか携わらないため、記憶が一連のものとして残るように1名の利用者様が最初から完成まで自分の得意料理でかかわるといよいよアイデアが出たが、実行できていないためすすめていきたい
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	全利用者様の排尿パターンの把握ができ、記録に残せるように意識したい
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、小遣いを自分で管理できる方はしてもらっている。個人で買い物をした時は自分で出すようにし、帰ってから一緒に家計簿間隔で出納を記入してもらう。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・喫茶店・公園の水やり・外出など外に出る機会を日勤がいる時には、設けている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望者はお芝居を見に行っているが、個人で本当にいきたい場所へ行くのは実施できていない。	○	普段みんなで外出する時には来られない利用者様に対して、今月個別で行きたいところへいくという計画が初挑戦で始まるので継続発展させていきたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人希望時・スタッフが用事で電話した時には、代わるようにしている。暑中見舞い・年賀状は利用者様と一緒に書くようにしている。母の日や誕生日の贈り物が届いた時は、利用者様と一緒にお礼の電話を入れている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族と連絡が途絶えないようにし、面会に見えたときは、居室でゆっくりお茶を飲みながら話ができるようにセッティングする。挨拶・利用者様本人と一緒に見送ったり、気易いように心がける	○	スタッフの顔や名前を覚えていただき、話しかけやすい関係作りに努める
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者・管理者指導の下、不必要な鍵はせず、不必要な薬での抑制などは行わず、家族にも同意書をとっている。利用者の安全のため、やむを得ず実施する場合は、家族に了承を得る。	○	言葉の抑制「だめだめ」「やめて」「そんなことしてはだめ」などがあるため、意識して声をかけていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	知らない間に居なくなっていることが多いため、見守りや利用者の所在の確認を徹底していく
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	事故発生時のマニュアルの浸透
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	事故発生時のマニュアルの浸透と継続訓練の実施
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	夜間の避難はどうするのか考えなければならない

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	考えられるリスクに対しては、家族に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや連絡ノートにて共有。些細なことでも看護師に報告し、状態観察や指示をもらい、必要時主治医に報告する。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会にて薬の把握をしている。また薬の追加変更・それによる効果・副作用などの注意事項を伝えている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や散歩などの運動と乳製品やおやつレクでサツマイモを使ったおやつを作ったりしている。	○	定期的に乳製品を取り込めるよう、ヤクルトやヨーグルトをとってあげればよい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	援助が必要な方は毎食後声かけ、介助している。眠前の口腔ケアは、義歯の超音波洗浄を行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が落ちている原因追求と、本人の食べたいものの把握、のど越しのよいものを勧めるなど思考をこらす。どうしても取れないときは栄養剤や点滴など主治医と相談し、早めに対処する。水分量に関しては透析の方は、指示のあった量を本人にあわせて出している。また水分摂取量の少ない方は1日1000ml目安に飲めるよう水分量を		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、徹底している。インフルエンザは毎年予防接種をスタッフ利用者全員接種している。貝は禁止している。血液は感染症があってもなくてもプラ手を使用する。週に1回のシーツ交換と布団干しをしている。毎日手すり、いす、床を消毒している。1日2回と汚れるたびトイレ掃除。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、賞味期限切れのものや残り物は最後遅番がチェックをし、捨てている。使うものだけ買い、余分は置かない。調理器具・フキン・手拭タオルは最後にハイターにつける		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を作っている。また夏野菜を植え、話題の提供にも役立っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりと1月のカレンダーをつけている。季節の花を飾ることや季節の行事や風物詩を貼り絵で作りかざるにより季節感を出している。自分専用のお茶碗・湯のみ・はしがある。電気は蛍光灯ではなく、自然色のものを使用。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が過ごしやすいよう、個人個人にあった居室作りを目指している。気の合った利用者様が近くにいるよう席は考慮し、リビングや廊下にあるソファでもくつろげるようにしてある。1人でゆっくりタバコが吸えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	工夫できているところとできていないところがあ る		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日朝窓を開けると、掃除の時は必ずあける。 夏は除湿を主とし、冬はファンヒーターの位置を 調整しながら、動いているスタッフに合わせない ようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりとバリアフリーにて現在に対応できてい る。車椅子でトイレ介助する時に、ぎりぎりだ ったので、トイレの1つをアコーディオンカーテン にし、介助しやすくした。	○	今後ADLが低下していけば、浴槽の改善も必要 になってくる可能性もあるので、情報交換しなが ら検討していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室を分かりやすくするため、暖簾をかけてい る。利用者様がどこまで自分でできるのか把握 し、できないことを何気なくフォローできるよ うにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	テラスは洗濯干しでいっぱいだが、夏の流しそ うめんはテラスで行っている。前の駐車場でバー ベキューや花火をやったり、外でやる行事に活用し ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日のラジオ体操を定着させ、毎月の貼り絵も好きな方だけですが、毎月季節に合ったものを作っています。利用者様の帰宅願望外出願望をなるべくとめず、原因追及し、その方が納得するように努めています。日々の生活の中でも、その方の得意なことを取り入れたプランを立てるようにしています。利用者様と一緒に家事をする時間、一緒にくつろぐ時間を大切にしています。